

## 義務教育学校・小中一貫校メリット・デメリット

### ○メリット

- ①様々な形で異学年交流（小学生にはあこがれ、中学生には思いやり）
- ②小中の教員が協働（より深く子どものことを理解できる）
- ③中学校教員の専門性を活かした小学校の授業への関わり
- ④中1ギャップ※の解消
- ⑤5・6年生からの部活動参加による技術向上を可能に

※児童が、小学校から中学校への進学において、新しい環境での学習や生活へ移行する段階で、不登校等が増加したりすること。（文部科学省ホームページより）

### ○デメリット

- ①小中合同行事の運営など、今まで以上に教員が忙しくなる
- ②放課後の運動場の使用には工夫が必要
- ③中学生相当の生徒の悪影響の恐れ
- ④リーダーシップや自主性を養う機会が減る

## 小中一貫教育における施設の形態

### ○施設一体型

小学校と中学校の施設を同一敷地内に設置し、義務教育9年間を一貫して教育を行う指導形態である。校舎施設のハード面の一本化に加えて、学校運営方針や学習内容などのソフト面も一本化することで、隣接型の教育をさらに発展させた教育に取り組める。

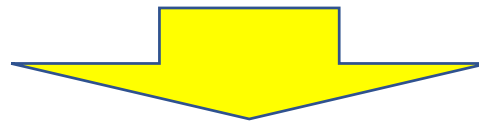
### ○隣接型

小学校と中学校が壁等で隣接していたり、道路一本で隔てられたりしている小・中学校の連携形態である。

小学校と中学校とが隣接している場合は、「連携型」と同様の取り組み以外に、学校ごとの独自性を維持しながら、より進んだ小中一貫した教育を行うことができる。また、児童・生徒や教員が移動する際に安全面が確保されることや、移動の時間短縮、活動時間の効率化・有効化を図ること、さらに、特別教室などの施設を共有したり、より一体感のある小中一貫した教育を行うことができる。

### ○連携型（施設分離型）

小・中学校が離れた場所に設置している場合の小中一貫した教育の取り組み。



## ○大阪市における小中一貫校の設置状況

開校年度	小学校・中学校（括弧内は愛称）	施設形態	区
H24	矢田小学校・矢田南中学校（やたなか小中一貫校）	施設一体型	東住吉区
H26	啓発小学校・中島中学校（小中一貫校むくのき学園）	施設一体型	東淀川区
H27	新今宮小学校・今宮中学校（いまみや小中一貫校）	施設一体型	西成区
H28	西淡路小学校・淡路中学校（須賀の森学園）	隣接型	東淀川区
H29	浪速小学校・日本橋中学校（日本橋小中一貫校）	施設一体型	浪速区
H30	南港みなみ小学校・南港南中学校（咲洲みなみ小中一貫校）	施設一体型	住之江区

## ○西生野小学校を選択した理由

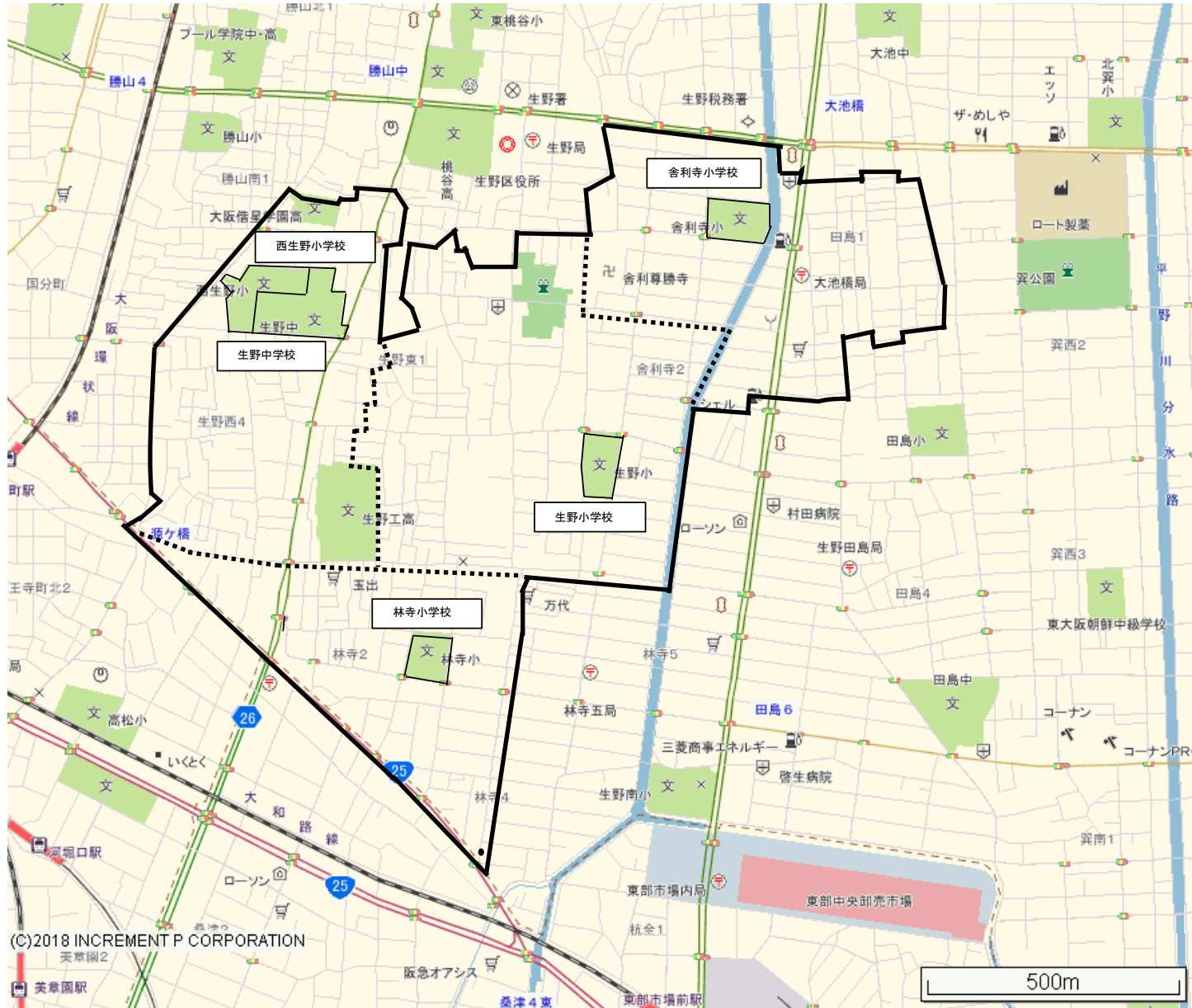
- ・ 隣接する生野中学校と西生野小学校の敷地を有効活用
- ・ 隣接する校地を生かし、職員室の集約化や、特別教室の共有化などにより、増築規模を抑制
- ・ 施設一体型を設置するには、建設する広大な土地を取得しなければならないが、新たな立地場所はなく、また、膨大な費用が発生



西生野小学校を活用し、生野中学校区を義務教育学校とする。

# 【事業の概要（位置図、計画図）】

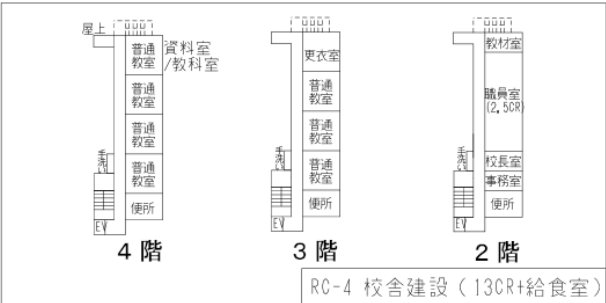
## 生野中学校区



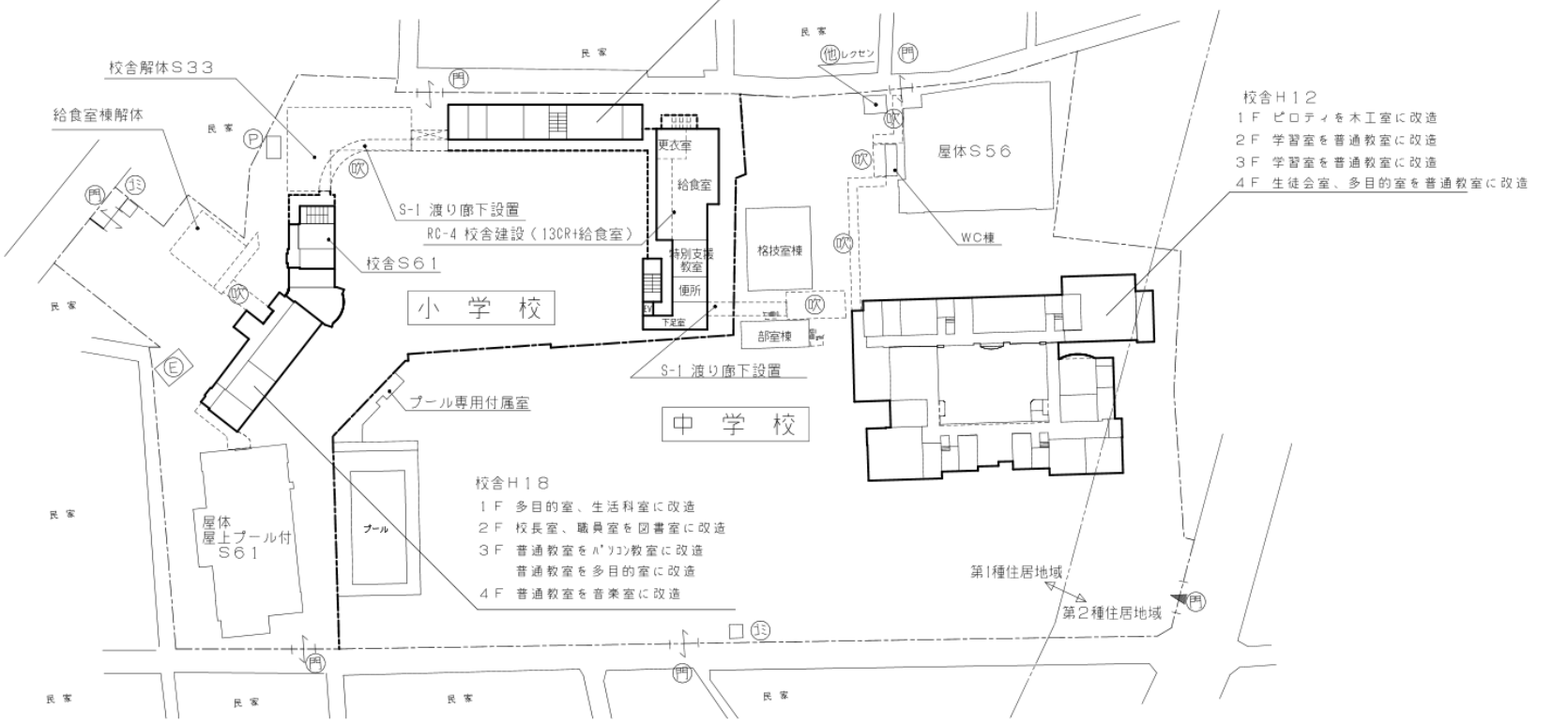
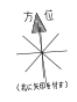
●西生野小学校・生野中学校校舎配置(航空図)



# 生野中学校区 義務教育学校

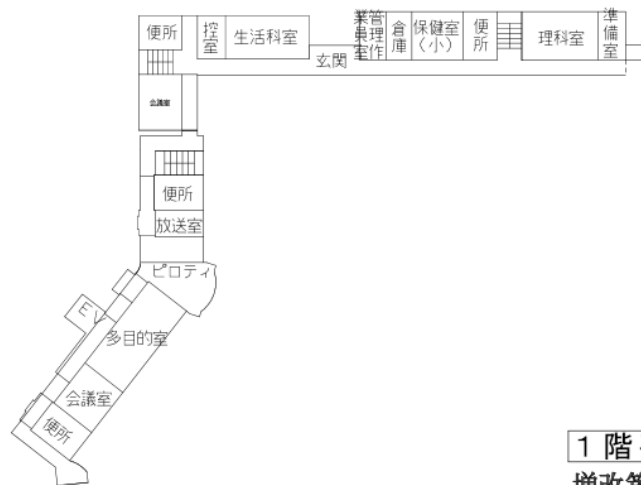


- 校舎S48、S54
- 1F 理科室を普通教室に改造
  - 2F A'ソコ教室、会議室を普通教室に改造  
図書室を特別支援教室に改造
  - 3F 図工室を特別支援教室に改造  
音楽教室を普通教室に改造

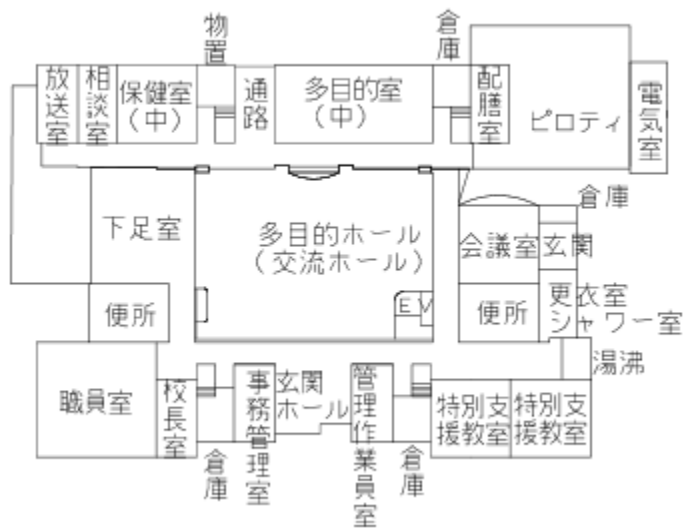


配置図兼1階平面図

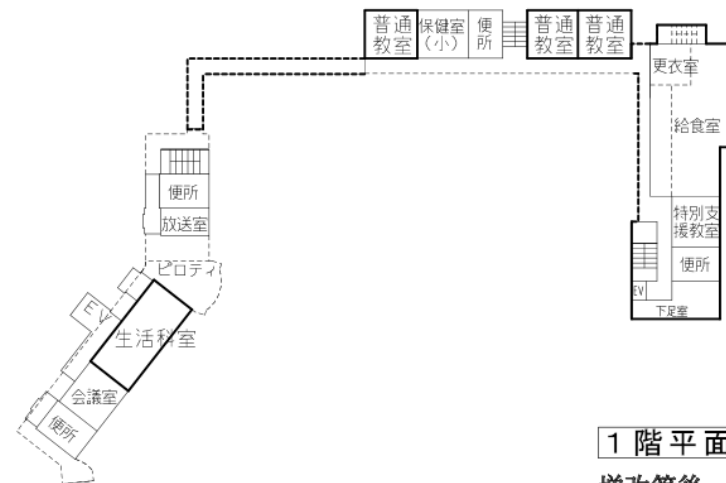
# 増改築前



1階平面図  
増改築前



# 増改築後



1階平面図  
増改築後

